

芦屋市立美術博物館は、1991年に芦屋市制施行50周年記念事業として開館いたしました。美術部門と歴史部門を併せた複合施設として、芦屋ゆかりの作家の作品を中心に内外の名品をご覧ください。また、芦屋の自然や歴史を実際に目で確かめ体験する学習の場として、皆様に親しまれる身近な文化施設となることを目指しています。



イベント情報
ART MARKET
あしやつくるば

当館のお庭で手作りマーケットやワークショップのお店が集まります。“つくる”ことから生まれる喜びや発見を共有する2日間です。



アートスタディプログラム
まなびはくルーム

美術家や研究者、学芸員と一緒に、美術や歴史の面白さ、楽しさ、難しさなどを発見していく講座やワークショップなどを開催します。
※詳細は当館HPでご案内します。



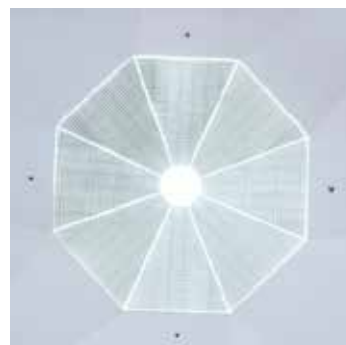
小出檜重アトリエ

芦屋ゆかりの洋画家・小出檜重(1887-1931)のアトリエを復元し、愛用の画材やモチーフなどの遺品、資料を展示しています。美術博物館開館中は無料でご覧いただけます。



喫茶
Café de Repos
カフェ・ドルポ

美術博物館のお庭に隣接する喫茶店。特別展に合わせ期間限定のデザートメニューもご用意しております。
10:00-17:00まで。



芦屋市立美術博物館
Ashiya City Museum of Art & History

〒659-0052 兵庫県芦屋市伊勢町12-25
TEL : 0797-38-5432 FAX : 0797-38-5434
HP : ashiya-museum.jp
X : @ashiyabihaku
Instagram : ashiyacitymuseum

各展覧会のスケジュールやイベントについては、当館HP、X、Instagramなどをご覧ください。



Ashiya City Museum of Art & History



芦屋市立美術博物館



展覧会のご案内

Exhibitions

Schedule

2026.4 ————— 2027.3

ご利用案内

開館時間 | 10:00-17:00(入館は16:30まで)
休館日 | 月曜日(祝日の場合は開館、翌平日休館)、
年末年始、展示替え期間中

展覧会によって料金が異なります。

※20名以上が団体料金となります。
※高齢者(65歳以上)および身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちのかたとその介護のかたは各当日料金の半額になります。

駐車場使用料(20台)
30分100円(8:00-20:00) / 60分100円(20:00-8:00)
※当館利用者は1時間無料

施設使用料

区分	10:00-12:00	13:00-16:30	10:00-16:30
講義室	2,850円	4,370円	7,230円
体験学習室	4,170円	6,820円	11,000円

※2026年7月1日より料金に変更になります。詳しくはHPを参照ください。

交通のご案内



徒歩 ▶ 阪神芦屋駅から南東へ約15分

阪急バス ▶ 「緑町(美術博物館前)」停留所下車、徒歩約3分

バス乗り場 ▶ 阪神芦屋駅から：①南向きのりば 系統1「新浜町」行き
JR芦屋駅から：北側⑤のりば 系統1「新浜町」行き、
または 南口のりば 系統8「芦屋浜営業所前」行き
阪急芦屋川駅から：①のりば 系統1「新浜町」行き

Exhibitions Calendar 2026-2027

- コレクションの樹、36年目の春 -新収蔵品を中心に
- チェコ絵本の作り方
-ポローニャ国際絵本展 受賞絵本から日チェコ共作のコミックまで-
- 北斎と広重(仮称)
- 第44回 芦屋市造形教育展
- 再考：具体／絵画(仮称)

※色のついていない期間は休館日となります。

2026	日	月	火	水	木	金	土
4					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30		

2026	日	月	火	水	木	金	土
6		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30				

2026	日	月	火	水	木	金	土
8							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

2026	日	月	火	水	木	金	土
10						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

2026	日	月	火	水	木	金	土
12				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

2026	日	月	火	水	木	金	土
2		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28						

2026	日	月	火	水	木	金	土
5						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						

2026	日	月	火	水	木	金	土
7			1	2	3	4	
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

2026	日	月	火	水	木	金	土
9			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30			

2026	日	月	火	水	木	金	土
11	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					

2027	日	月	火	水	木	金	土
1						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						

2027	日	月	火	水	木	金	土
3		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			5月末まで

4/11(土)－6/28(日)

コレクションの樹、36年目の春
-新収蔵品を中心に



小出楯重《芦屋風景》
1928年 墨、紙 当館蔵 *2022年度収蔵

当館は開館準備室が発足した1989年よりコレクションの収集を開始し、1991年に開館しました。その後2000年までは基金によって芦屋ゆかりの美術家の名品が購入され、以降は作家ご遺族や関係者からの寄贈によってコレクションが拡充されています。近年は小出楯重や具体美術協会会員の貴重な作品や、植松奎二や山村幸則といった現代作家も新たに加わりました。本展では、元号が令和となって以降に収蔵した18作家の作品を、開館当初に収蔵した作品と併せて展示・お披露目します。1本の樹が育つように体系的に収集されてきた当館コレクションの歴史を振り返るとともに、未来へ向けて、コレクションの展望を考える機会とします。

7/14(火)－9/27(日)

チェコ絵本の作り方
-ポローニャ国際絵本展 受賞絵本から
日チェコ共作のコミックまで-



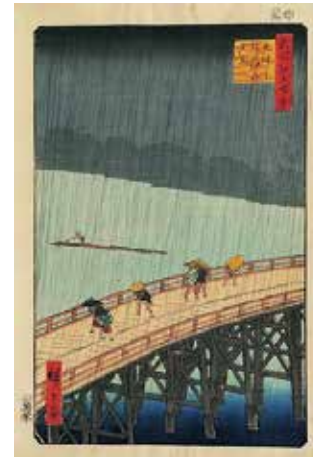
エヴァ・ヴォルホヴァー
『フリードリーナとアントニーナと小さなミーナ』
2019年 © 2019 Eva Volfová

素朴さと洗練されたデザインで知られるチェコの絵本は、近年も魅力的な作品が次々と生み出されています。2023年には、特色や蛍光インクを駆使した絵本『ミコ、キノコの世界の完全な情報誌』がポローニャ国際絵本展ラガッツィ賞を受賞し、国際共同プロジェクトによるコミック制作など、その広がりは一層注目を集めています。本展では、貴重な絵本からチェコ絵本の歴史を振り返るとともに、近年、海外でも注目を集めている最新鋭のチェコの作家たちの創作とその絵本作りの魅力を、原画、リトグラフ、デッサン、制作資料、絵本、コミックなど多様な資料を通して紹介します。

10/22(木)－2027/1/17(日)

北斎と広重(仮称)

江戸後期を代表する浮世絵師である葛飾北斎と歌川広重。北斎は圧倒的な画力と奇抜な発想、広重はしっとりとした風情と豊かなストーリー性が大きな魅力です。今回の展覧会では、天候や季節、時間帯、人物などに応じて、北斎と広重が描き分けた日本の美しい風景を紹介し、また街道や江戸名所、諸国名所、富士山などの題材別に二人の作品の楽しみ方を解説。北斎と広重の違い、洋風画から北斎が受けた影響などにも注目します。



歌川広重
《名所江戸百景 大はしあたけの夕立》

2/13(土)－2/21(日)

第44回
芦屋市造形教育展

芦屋市内の就学前施設、小学校、中学校の子どもたちの作品を全館で展示します(歴史資料展示室除く)。主催：芦屋市教育委員会 芦屋市造形教育研究会



第43回 芦屋市造形教育展の様子(2025年度)

3/9(火)－5/30(日)

再考：具体／絵画(仮称)



村上三郎《作品》
1957年 ミクストメディア、板 当館蔵

戦後日本の前衛美術を代表する具体美術協会。「具体」の作家たちは、絵画の枠組みを根本から問い直し、従来の絵筆による制作を超えた身体的なアプローチや新しい素材の導入を通じて、絵画を空間や時間へと開き、その概念を拡張しようと試みました。同時に、絵画の理念や本質に向き合い、その探求を深化させることで独自の表現を築いた作家も存在します。本展では、当館コレクションを中心に、吉原治良、嶋本昭三、山崎つる子、元永定正、白髪一雄、村上三郎ら、第一世代と呼ばれる「具体」会員の作品を通して、彼らが絵画に託した意識と実践を検証します。

歴史資料展示室



芦屋市のプロフィール、地理的特徴、現在の住宅都市となった背景、古代の芦屋について、数多くの資料を通じて紹介しています。昔のくらしの道具や土器のハンズオン展示もあります。企画展スペースでは、特別展や時事的話題に関する小企画展を年に数回行います。(会期は各展覧会に準じます)